

令和7年第3回定例会(令和7年9月29日)

予算決算特別委員会委員長 (森山 義治 委員長)

去る9月8日の本会議において、予算決算特別委員会に付託を受けました『議第79号 令和6年度別府市一般会計歳入歳出決算の認定について』から『議第87号 令和6年度別府市競輪事業会計利益の処分及び決算の認定について』までの計9議案について、審査の経過並びに結果についてご報告申し上げます。

「当初予算審査」と「決算認定審査」の循環性を保つため、本委員会では、予算の執行や各事業が適正かつ効果的に行われているかを検証し、将来の財政運営や、翌年度の当初予算編成へ反映させることを目的として、本年度も、慎重かつ適正な審査を実施いたしました。

委員会審査初日の9月11日においては、執行部の総括説明を受けた後、委員4名による総括審査を実施いたしました。

また、12日には、委員4名、16日には委員3名による個別審査を実施し、9月17日に採決を行ったところであります。

以上、議第79号から議第87号までの計9議案については、84項目の審査通告に基づき、審査をいたしました結果、一部の委員から反対の意思表示がなされましたが、次の意見を付して、認定すべきものと決定いたしました。

1 経常収支比率の改善について

ここ数年の経常収支比率は、令和4年度96.1%、令和5年度97.1%、令和6年度97.4%と高止まりの状態である。

硬直化した状態を改善し、健全な状況を早期に達成できるよう、交付税措置のある起債の活用のほか、更なるデジタル技術の活用により業務の効率化および省力化を図る「DX化」の推進など、行財政運営に努めることを求める。

2 市税の徴収等について

地方行政において自主財源の基本である市税の徴収率は、すべての税目で上昇しており評価できる。

しかしながら、今後の人口減少や社会情勢の変化などによる歳入推移を注視し、入湯税の超過課税や宿泊税などの新規法定外税導入について引き続き調査研究を行うなど、収入確保に向けた一層の努力を求める。

また、滞納整理を進めるためのきめ細やかな体制を構築し、近年の厳しい経済状況により、やむなく滞納せざるを得ない市民への相談体制の強化を図ることを求める。

3 子どもの未来創造・スクールソーシャルワーカー活用について

多様化・複雑化する社会の中で、支援を必要とする子どもたちに対し、切れ目のない支援を行うことが必要とされている。潜在的に支援を必要としている子どもを早期に発見し、事前領域で適切な支援に繋げていくことで、子どもの未来を守っていくことは特に重要である。

こども家庭庁の「こどもデータ連携実証事業」に採択され、令和6年度に実施された事業では、スクールソーシャルワーカーや、スクールカウンセラー、また登校支援ルーム等に繋げることができ、切れ目のないサポートシステム体制の構築ができたことは評価できる。

今後、中長期的な視点での支援に繋げていくため、更なるシステム構築の向上を求める。また、スクールソーシャルワーカー等の人員不足解消に向けて、人材の拡充を求める。

4 補助金の必要性の検証について

補助金の交付にあたっては、公益性や公平性を確保し、十分な審査と効果を検証する必要がある。

ひとまもり・まちまもり事業については、協議会の活動が年々運営や実施事業も充実し、主体的な取組は将来に向けた持続可能な地域づくりにつながるものと期待されている。

しかしながら、7つある協議会それぞれに活動内容や運営方法もさまざまであり、交付された補助金の中には、人件費や事務局の運営費が含まれていることから、補助金交付については、今後も十分に検討し支出することを求める。

補助事業完了後には、実績報告及び補助金等成果報告書等により、補助金の透明性の確保に努めること。

最後に、各事務事業を行うにあたっては、最少の経費で最大の効果が得られるよう事業内容の精査・費用対効果の検証を十分に行い、本意見書及び委員会での意見を反映し、適切な予算見積もりにより不用額や繰越額を抑えられるよう、令和8年度の当初予算を編成することを求める。

また、予算審査と決算審査の循環性を図るため、令和8年（令和7年度決算認定審査）予算決算特別委員会において、その取組についての回答を求める。

以上、当委員会に付託を受けました議案9件に対する意見と審査結果の報告を終わります。

何とぞ、議員各位のご賛同をお願いいたします。